

2026年5月24日

横浜読書会 konkon 第1回課題本読書会
現役学芸員とゆる〜く語る『不道德教育講座』読書会

1. ナビゲーター：しほ

読書するただの30代一般人。横浜に住み、東京で学芸員の仕事をしている。専門は三島由紀夫ではなく、日本美術史、特に浮世絵。好きな本のジャンルはエッセイ、次いで小説。食に関する本が好き。

その他、美術館、歌舞伎、宝塚(ハマリ始めたばかり)、戦後の映画など、芸術に関することが好き。

各種 SNS→@shihobook1992



X



note

2. 三島由紀夫

小説家、劇作家、評論家。大正14年(1925)1月14日生まれ。戦後の日本文学界を代表する一人。代表作は小説に『仮面の告白』『潮騒』『金閣寺』『鏡子の家』『憂国』『豊饒の海』など、戯曲に『近代能楽集』『鹿鳴館』『サド侯爵夫人』など。

絢爛豪華で詩的な形容、高い知性に裏打ちされた緻密な構成、そして耽美主義的な「美と死」の追求が最大の特徴。

晩年は国粹主義(自国の文化の独自性を強調し、それを保守しようとする思想的な傾向)を強める。昭和45年(1970)11月25日、自衛隊市ヶ谷駐屯所で、自衛隊員に向けてクーデターを促す演説をしたのち、割腹自殺をした。享年満45歳。



三島由紀夫、30歳

『文藝』(昭和30年4月号)掲載

3.『不道德教育講座』とは

昭和 33 年(1958)7 月 27 日の雑誌『週刊明星』創刊号から翌 34 年(1959)11 月 29 日号まで連載されたエッセイ。全 69 編。連載当時、三島は 33～34 歳。

井原西鶴の『本朝二十不孝』にならって書いたユーモラスな逆説的道德のすすめ。いじめや忘恩などの悪徳を奨励し、偽善的なモラルを皮肉りながら、人間の本質や真の倫理をあぶり出すという知的なユーモアにあふれた内容となっている。

4.映画化

『不道德教育講座』は、昭和 34 年(1959)に製作された同名の映画もある(西河克己監督、日活)。映画は本書の内容をもとに物語化した喜劇。三島本人も冒頭と最後に登場。Amazon prime で配信されているので興味がある方はぜひ。

